

【青果部】

1. 取扱高 期間：平成31年1月から令和元年7月まで(開市日数 146 日)
 数量：54,811 t (前年比 103.1%)
 金額：11,346,140 千円 (前年比 90.9%)

2. 月別取扱高

上段:数量(t)と前年比 下段:金額(千円)と前年比

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年取扱高
野菜	4,448	5,635	7,076	6,389	5,937	8,078	9,347						46,910	45,943
	110.5%	117.0%	102.7%	98.2%	97.1%	96.8%	101.2%						102.1%	
	1,133,754	1,293,698	1,334,224	1,352,977	1,132,637	1,268,508	1,451,944						8,967,741	10,037,765
	90.0%	86.6%	81.7%	102.3%	89.3%	94.1%	84.7%						89.3%	
果実	1,048	1,359	1,161	1,009	847	886	1,305						7,616	6,935
	102.7%	112.0%	104.0%	116.7%	104.0%	104.7%	123.3%						109.8%	
	266,077	331,712	338,531	308,328	302,050	311,612	390,466						2,248,775	2,312,100
	96.6%	99.9%	90.9%	102.7%	95.1%	96.0%	100.3%						97.3%	
その他 (野菜・果実加工品、鳥卵、その他)	44	39	38	47	55	34	30						286	289
	102.3%	84.4%	83.1%	161.6%	96.3%	98.8%	85.6%						98.8%	
	21,669	21,808	23,958	16,373	18,835	13,442	13,539						129,624	130,973
	92.6%	89.9%	106.9%	128.3%	89.7%	100.6%	98.3%						99.0%	
合計	5,540	7,033	8,275	7,445	6,839	8,998	10,682						54,811	53,168
	108.8%	115.7%	102.7%	100.6%	97.9%	97.5%	103.4%						103.1%	
	1,421,500	1,647,217	1,696,713	1,677,678	1,453,522	1,593,562	1,855,948						11,346,140	12,480,839
	91.2%	89.0%	83.7%	102.6%	90.4%	94.5%	87.7%						90.9%	

3. 入荷及び価格の状況

〔野菜〕 1、2月は冬型の気圧配置になることが多かったものの、大陸からの冷たい空気の流れ込みが弱く、気温は平年を上回って推移したため、生育は前進傾向となり、太物・大玉傾向となった。3月は全国的に気温が高く、関東から九州までの広い地域で、気温の上昇が進み順調な生育となった品目が多かった。しかし、4月初旬は東日本を中心に季節外れの低温となり、中旬にかけて価格が高騰した品目もあった。5月に入ると高気圧に覆われて晴れた日が多くなり、日照時間が多く平均気温も高く、全国的に順調な入荷となり、加えて大型連休後の消費の低迷が顕著となり、単価が前年割れとなる品目が多く見られた。東北北部は6月中頃に梅雨入りし、それまでの少雨・干ばつ傾向が一転し、影響が懸念されていた品目も回復が見られ、数量も安定してきた。

1月はキャベツ、レタスを中心に葉茎菜類で全般的に豊作傾向となり、生育順調で数量増の単価安となった。2月は好天による大根の前進出荷が続き、前年より数量が多かった。3月は平均気温が高かったため雪解けが早まり、長いもが洗い・土付きとも入荷順調で数量、金額共に前年を上回った。4月は白菜が低温のため遅れが見られ、数量減の単価高となった。5月はごぼうが例年より残量多く、数量は多かったものの単価安で推移した。6月は馬鈴薯が、関東産の出遅れの影響により数量減となり単価高となった。7月は人参が関東産の残量が多く、産地のダブ付きから価格低迷となった。

〔果実〕 りんごは、年明けは県産のふじが小玉中心の販売となったが、単価が高かったため荷動きは良くなかった。2月になると中小玉は入荷が少なくなり相場は良かったものの、大玉や下等級品が多く、全体的に安値相場となった。3月は普通冷蔵品からCAIに切り替わったが、キズ果等の残量が多く、4月頃まで数量は多いが販売に苦戦し単価安となった。5、6月はサンフジの残量が多く、以降も値頃感のある下等級品中心の販売となった。

1月は気温が低かったこともあり、みかんの荷動きがよく数量、金額共に前年を上回った。2月はぶどうが数量増により昨年より単価安となり、順調な販売となり荷動きも良かった。3月はいちごが寒さの影響でやや出荷は少なかったものの、中旬にかけて彼岸需要などにより活発な荷動きとなった。5月になると、関東産のメロンの入荷が始まったが、産地相場と販売価格が合わず厳しい販売となった。6月中旬頃にはさくらんぼの入荷が始まったが、昨年と比べ数量減の単価高で推移した。すいかは、7月半ば頃まで気温が上がらなかった影響で荷動き鈍く、単価安で厳しい販売となった。

【花き部】

1. 取扱高 期間：平成31年1月から令和元年7月まで(開市日数 141日)
 数量：7,703 千本 (前年比 92.8%)
 金額：642,156 千円 (前年比 98.3%)

2. 月別取扱高

上段:数量(千本・千鉢・千個)と前年比 下段:金額(千円)と前年比

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年取扱高
切花	665	820	1,657	959	1,000	810	990						6,901	7,412
	91.9%	100.8%	90.4%	90.8%	95.1%	84.7%	101.3%						93.1%	
	59,094	67,392	136,953	72,999	80,243	57,613	72,037						546,331	556,038
鉢物	8	10	13	19	23	10	7						90	94
	131.0%	111.3%	68.2%	97.4%	90.5%	95.8%	124.5%						94.9%	
	3,895	4,383	5,794	8,409	8,991	3,633	3,638						38,742	38,001
その他 (枝物、観葉植物、 苗物、植木、加工 品、その他)	22	86	70	134	194	128	77						712	795
	74.4%	57.2%	101.7%	99.7%	91.9%	91.4%	127.8%						89.5%	
	2,372	5,091	5,472	14,538	13,810	9,348	6,452						57,083	59,217
合計	695	916	1,740	1,112	1,217	948	1,075						7,703	8,302
	91.6%	94.1%	90.6%	91.9%	94.5%	85.6%	103.0%						92.8%	
	65,361	76,865	148,219	95,946	103,044	70,593	82,127						642,156	653,256
	96.5%	100.0%	98.7%	105.3%	102.2%	86.5%	96.6%						98.3%	

3. 入荷及び価格の状況

〔切花〕 年明けは、昨年秋頃の台風被害の影響により、沖縄県産の小菊類が入荷少なく高値で推移した。カーネーションは暖冬のおかげで生育が良く、スタンダード・スプレー共に入荷が増えた。2月も安定した入荷量と価格となったが、後半になるにつれて沖縄県産の小菊類などが気温が高く前倒しでの入荷となり安値で推移した。3月の彼岸時期では、菊類を中心にユリなどが例年並みの価格で取引され、彼岸後も値崩れは少なく中値で推移した。下旬にかけて急激に気温が上がった結果、開花が進み入荷量が増え価格は安値となった。4月は産地の天候に恵まれ、輪菊とカーネーションが多く入荷したが、引き合いは弱かった。オリエンタルユリやファレノプシスなどは入荷が少なかったが引き合い強く高値で取引された。母の日需要ではカーネーションが例年に比べると扱い本数は減ったが、安定した入荷があり中値安定となった。バラは国産、ケニア産共に引き合いが良く、後半は国産中心の荷動きとなった。母の日需要後は業務需要や小売販売に移り、菊や洋花を中心に中値から安値で取引されたが、動きが鈍く数量も少なかった。6月下旬には八戸市近郊より多く入荷され、特に菊類は数量多く単価安での取引となった。7月中旬ころまで安定した取引となったが、下旬頃から高温により開花が早まり、お盆用の切花が増え安値へと移行した。

〔鉢物〕 年初めは贈答用の蘭類が多く入荷され、数量・金額共に前年を上回った。苗物は例年並みの入荷であったが、3月下旬頃から入荷が増え、中値での取引となった。4月になると関東・東北から多種に入荷があり、好天にも恵まれ荷動きは良かった。下旬には八戸近郊・津軽方面から出荷されるマリーゴールドやパンジーなどの苗物が多く入荷した。また、植木では緑化まつりに向けてツツジやサツキなど背丈の低い植木の動きが良かったが、桜やモミジなどの大型の植木は少なく、荷動きも鈍かった。5月上旬には母の日用カーネーションなどが多く取引され、苗物は八戸近郊からの入荷が多かった。植木ではヒバ類の動きが多かったが、芝生販売が中心の動きとなった。6月になると、苗物の動きが良くなり、青森県内をはじめ、秋田県や岩手県、東北一帯からの入荷があった。蘭類も動きが良かったが、観葉植物の動きは弱かった。7月には東北産地からの夏季出荷が終了し、県内中心の入荷が主となった。関東からの入荷は蘭物が好調であったが、苗物、観葉植物は伸び悩んだ。